

校長室からひがしなら通心

(H29年度) 茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 18

平成29年7月14日(金)発行

スマホトラブルから子どもを守れ

ある新聞記事より

今や小学生もスマートフォンを使うのが当たり前の時代。便利な反面、いじめや犯罪被害などインターネット関連のトラブルに巻き込まれる事例が増えている。関連企業は子ども向け講座を開いたり、ネットの正しい使い方を学べるゲームを開発したり、対策に力を入れている。

<年300回の講座>

「ネット上には、家の玄関の前に張り出してもいいことしか書いてはいけません」

10月半ば、東京都豊島区の駒込小学校。6年生の児童約30人を前に、ソーシャルゲーム運営大手グリーの小木曾健さんは、ネット上に個人情報を安易に書き込むと筒抜けになる危険性について説明した。池田昌弘教諭は「ネットが子どもにとって身近なものになっているので依頼した。子ども達はすごく集中して聞いていた」と驚く。

有害サイトの閲覧を制限するフィルタリングサービスを提供しているデジタルアーツ(東京)は6月、小学生の子どもを持つ保護者206人を対象にアンケートを実施。子供がスマホを使用する家庭は40.8%と、3年前の14.6%から大幅に伸びた。

小木曾さんは全国の学校などからの依頼で年間約300回、講座を開く。地方では、広域から児童が通うため、放課後の連絡手段としてLINE(ライン)などの無料通信アプリが欠かせない状況で「スマホトラブルは都市部だけでなく、全国共通の問題」と強調する。

警察庁によると、今年上半期に出会い系以外の交流サイトで犯罪被害に遭った18歳未満の子どもは、昨年同期より14.0%多い796人に



上った。

交流サイトでのいじめや、個人情報の漏洩も問題だ。小木曾さんによると、年間5、6人は深刻な状況に陥った子どもに遭遇する。友人に暴力を振るう様子が別の友人に投稿されたことをきっかけに、名前、住所、両親の勤務先も投稿され、転校に追い込まれたケースもある、という。

グリーはネットでの振る舞い方は日常生活と変わらないことなどを訴える「情報モラル教育」用の教材を配布。さらに9月に、より実効性の高い対策として、スマホやネットの安全な使い方を楽しみながら学べるゲームアプリ「魂の交渉屋とボクの物語」の無料提供を始めた。

<親の過信戒め>

デジタルアーツの工藤陽介さんは「小学生の親は、自身もスマホを利用してきた人が多い。『自分が大丈夫だったから子どもも大丈夫』という過信があるように感じる」と話す。

デジタルアーツの調査によると、フィルタリングを利用する小学生は約40%と、50%を超える中高生に比べ低い。フィルタリングは親か本人がIDなどを打ち込んで設定する手間が掛かることが大きな要因だが、工藤さんは「親が意識していないことも背景の一つ」と指摘する。

スマホなどIT機器に幼いころから触らせることは危険だとの意見もある。しかし授業でタブレット端末を利用している聖愛幼稚園(東京都福生市)の野口哲也園長は「これまでできなかった遊び方や学び方を通じて創造力を育める利点もある。保護者が危険性を認識した上で一緒に使っていくべきだ」と話す。

みんなのためのルールブック

「あたりまえだけど、とても大切なこと」 ロン・クラーク 草思社

ルール9 もらったプレゼントに文句を言わない

だれかに何かをプレゼントされたときは、よくない感想や不満を口にしてはいけない。プレゼントをくれた人にたいして失礼だからだ。

●プレゼントをくれた人がだれであっても、その人の気持ちを考えて、喜んでいる態度を見せよう。ほんとうはあまり気に入らなかったとしても、それを態度にあらわすのは失礼というものだ。